

重点感染症に対する治療薬の現状・利用可能性の確保の検討(案)

重点感染症(暫定リスト)等に対する治療薬の承認状況

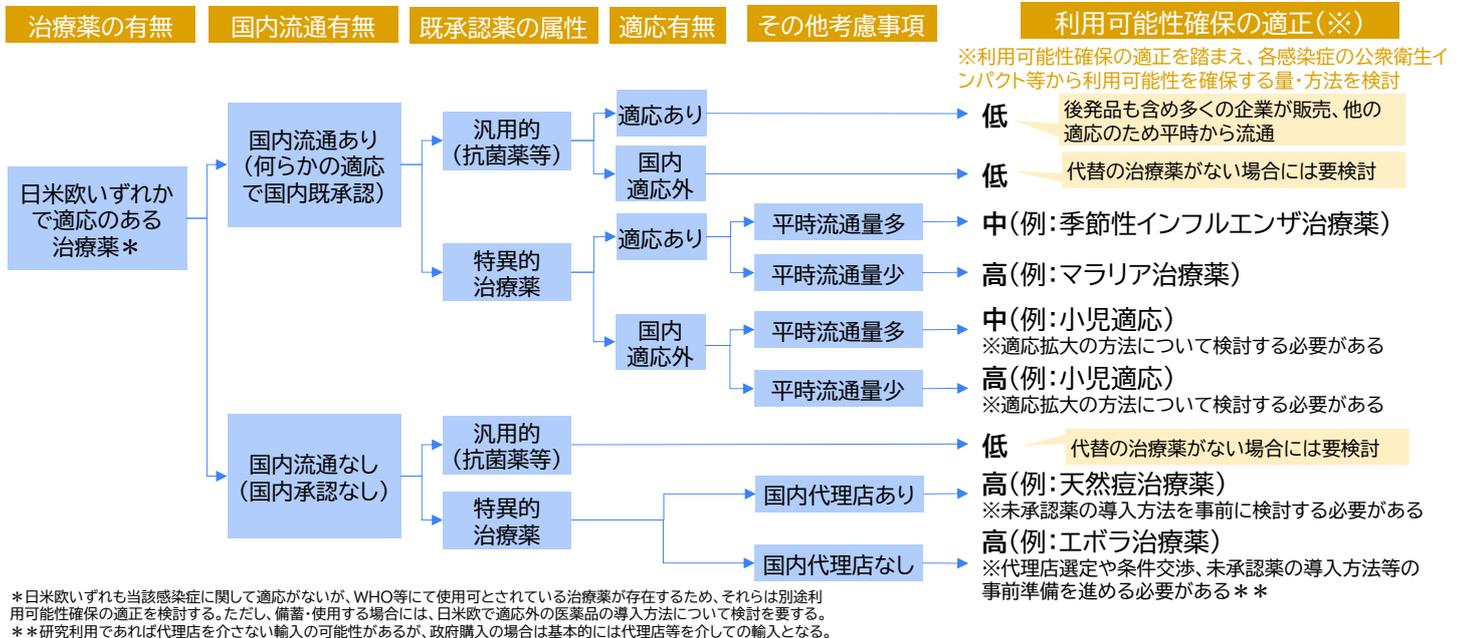
凡例:○・・・承認薬あり/×・・・承認薬なし

区分	疾患名	FDA承認	国内薬事承認	区分	疾患名	FDA承認	国内薬事承認
A	天然痘	○	×	NTD	ブルーリ潰瘍	×	×
B	SARS	×	×		ハンセン病	○	○
	MERS	×	×		アメリカトリパノソーマ	○	×
	RSウイルス	○	×		アフリカトリパノソーマ	×	○
	デング熱	×	×		リンパ系フィラリア症(象皮病)	○ 汎用薬のみ	○ 汎用薬のみ
	ジカウイルス	×	×		リーシュマニア症	○	○
	チクングニア熱	×	×		トラコーマ	○ 汎用薬のみ	○ 汎用薬のみ
	重症熱性血小板減少症候群	×	×		トレポネーマ感染症(イチゴ腫含)	○ 汎用薬のみ	○ 汎用薬のみ
	エボラ出血熱	○	×		囊尾虫症	○ 汎用薬のみ	○ 汎用薬のみ
	ラッサ熱	×	×		メジナ虫症	×	×
	エンテロウイルス	×	×		包虫症	○ 汎用薬のみ	○ 汎用薬のみ
D	ニパウイルス	×	×		食物媒介吸虫類感染症	○	○ 汎用薬のみ
	マラリア	○	○		オンコセルカ症(河盲症)	○ 汎用薬のみ	○ 汎用薬のみ
	狂犬病	×	×		住血吸虫症(ビルハルツ住血吸虫)	○ 汎用薬のみ	○ 汎用薬のみ
	炭疽	○	○ 汎用薬のみ		土壌伝播寄生虫症(腸内寄生虫)	○ 汎用薬のみ	○ 汎用薬のみ

利用可能性確保の適正の評価指標について

- 既承認治療薬に関して、利用可能性確保の適正を判断するロジックを検討
- 利用可能性確保の適正の評価指標を「既承認薬の有無／承認薬の属性／平時利用／国内承認状況」等と整理

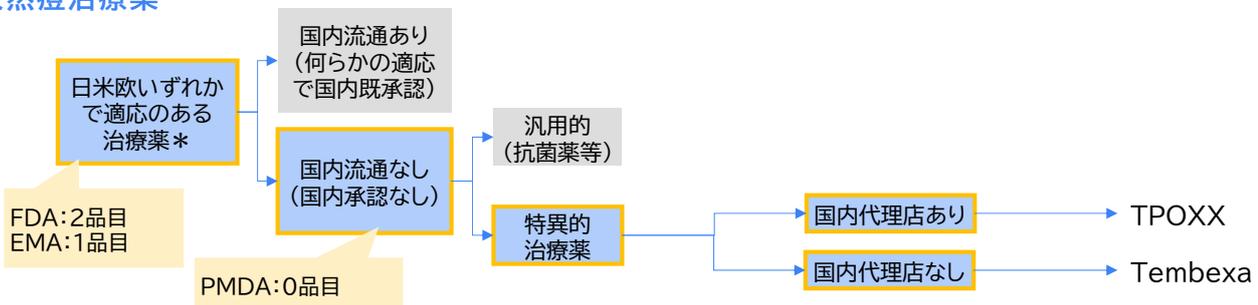
- ただし、利用可能性確保の適正のあるMCMが存在していても、引き続き研究開発が必要な場合もある



治療薬の利用可能性確保に係るロジック(例)～治療薬がある場合

- 前頁のロジックを具体的な治療薬に当てはめると以下のとおりとなり、各々のタイプで利用可能性確保戦略を検討すべきと想定される。

天然痘治療薬



炭疽治療薬



～承認済薬がない場合：体制・制度検討に関する検討ロジック案

- 既存承認済薬がない場合、制度・体制における課題を解決し、開発を進める必要があるため、その際のロジックを検討。

